



# 東中だより

夢を追え、自らを高めよ  
—学べ・磨け・輝け—

## 9月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和4年8月31日 発行

## 「一生懸命」が伝えるもの

校長 遠藤 浩之

今、本校の職員玄関を入ると目につくのは、埼玉県大会の優勝カップと優勝旗、そして「埼玉県代表 さいたま市立東浦和中学校」と染め抜かれた、第53回全国中学校サッカー大会の水色の幟（のぼり）です。

6月4日のさいたま市予選から始まった学校総合体育大会ですが、お蔭さまをもちまして、本校サッカー部は全国大会への出場という、素晴らしい結果を出すことができました。私は、県大会、関東大会（山梨県）、全国大会（山形県）、いずれの会場にも応援に行きました。どの会場にもお揃いの白いTシャツを身に付けた多くの保護者や応援にかけつけてくださった皆様の姿がありました。そして、そこにいる全員が、選手たちのプレー1つ1つに手に汗を握って応援していました。コロナの感染拡大防止の観点から、大きな声を出すことは憚（はばか）られましたが、その表情を見ていると、心の中で応援している声が、実際に聞こえてくるかのようなようでした。関東大会の2回戦、駒場東邦中学校（東京）に敗れた際にも、敗者復活戦で藤沢市立鶴沼中学校（神奈川）に敗れた際にも、「お疲れー！次頑張ろうー！」とスタンドの多くの方から温かな声がかかりました。そして、最後の出場枠である第7代表をかけた市川市立第三中学校（千葉）との試合、2対0で勝利した瞬間、抱き合って涙を流している姿をあちらこちらで見ることができました。

私はサッカーの専門家ではありません。ですから、戦術面がどうのということはありません。でも、フィールドの選手たちの一生懸命な姿は、間違いなく多くの人の心を動かしました。応援している私たちに元気をくれました。

今回の関東大会、全国大会への出場に際し、多くの地域の皆様からのご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げますと共に、改めて東中が地域に根差した学校であることを実感させていただくことができたことは、私にとりまして大変貴重な機会となりました。

誰かの一生懸命が、誰かの心を動かし、誰かに元気を与え、そしてまたその一生懸命を支えようとする人たちが出てくる。そんな、当たり前ですが、普段は忘れてしまっている大切なことを思い出させてくれたのは、本校サッカー部の生徒たちです。改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。皆さんの頑張り、東中の素晴らしき伝統に、新たな1ページを加えてくれたことは間違いありません。

新型コロナウイルス感染拡大は、まだ収まる気配がありません。この状態になってから、もう2年半を過ぎました。しかしこの間、リアルな学びの場がいかに大切かということを実感できたのも事実です。本校においても、今後の諸行事等について、どうすれば中止せずに進めることができるかという観点から、工夫を重ねてまいります。保護者並びに地域の皆様におかれましては、2学期も本校教育活動へのご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、改めまして、本校サッカー部の関東・全国大会出場に際し、ご協賛いただきました多くの保護者、地域の皆様に、この場をお借りし心より感謝申し上げます。